令和３年度大津市立日吉台小学校　学校評価書【評定】　Ａ：目標を上回る達成　　Ｂ：目標を達成または概ね達成　　Ｃ：目標を達成せず

中項目	小項目		小項目評価	自己評価 現況	学校関係者評価 意見、提言等	今後の学校改善に向けて
学び合い	1	支持的風土を育てる学級・学年集団づくりの実践	B	・「自分自身の良さやがんばり」に気付ける取組や学級での親睦を深める活動を通して、互いに認め合う学級の支持的風土づくりの推進と個々の自尊感情の向上に努めた。 ・各教科で子ども達同士が聴き合う活動を設定し、学びの広がりや深まりが実感できる授業の推進に努めた。 ・上学年を中心に、タブレットを活用した学習を積極的に導入した。 ・全学級の授業公開を計画し、様々な教科を窓口として研究主題に迫る授業を行い、互いの授業から教師も学びを深めた。	・毎年一番気になるのは、「自分には良い所がある」と思えない子どもが３分の１近くもいることである。自ら学んだことや努力した成果を仲間の前で発表し、みんなから認められるような機会を増やしてもらいたい。 ・互いを認め合うことが大切かと思う。そのために、人の話をしっかり聞く。こんなことを言ったら笑われるかなとか思っている子どもがいるかも知れない。しかし、みんながちゃんと聞く姿勢を持っていいれば、話すことができると思う。 ・授業参観の機会が少なかったが、どの学年、どの教科も創意工夫され、子ども達も熱心に授業に取り組んだ。高学年のタブレットも見事に活用できていた。	・一人ひとりの持ち味を互いに認め合い、一人ひとりが大切にされる支持的風土のある学級作りに努める。 ・個々の自尊感情の向上を図るための具体的な取組を計画的に進める。 ・「学びを深める姿」についての各学年の目標の見直しを図り、学年の発達段階に応じた系統的な授業づくりの推進に努める。 ・深まりのある研究にするために、計画的に授業の事前研究を実施し、複数の職員で指導案の検討を行う。研究協議会では、成果と課題を明確にし、次へつながる継続した研究の推進に努める。
	2	協同する体験・伝え合う喜び・コミュニケーション能力の育成を図る授業の工夫改善（ＩＣＴの活用含む）	A			
	3	主体的・対話的で深い学びを追求する授業研究や研修会	A			
道徳教育	4	生命を尊重する心やいじめを許さない態度などの道徳的実践力を育てる活動の実施	A	・特別の教科道徳科として、道徳の教科書及びノート、附属のDVDを活用して、週一時間の道徳の授業を確保できた。 ・作成した教材や資料を学年ごとに保存し、次年度からも共有して使用できるように進めている。 ・１１月に、全学級、道徳科の授業参観を実施し、保護者や地域に開かれた道徳教育を進めた。	・保護者等への道徳科の授業参観の実施は非常に有意義な取り組みだと思う。家庭間でのコミュニケーションの一つとして今後も続けていけたらよいと思う。 ・いじめもないようだし、ユニークな子どもがたくさんいるようだ。人はそれぞれ違うのだということを日々学ぶは大切だと思う。・ ・週1時間の道徳の授業を確保し、子ども達の生活の中での「機会を捉えた指導」を通して、学習の定着をさらに図っていただきたい。	・道徳科の授業の週１時間の確実な実施と、人権週間及びいじめ防止啓発月間の取組等を通して、道徳的実践力を育む。 ・作成した教材や資料を学年ごとの棚に整理し、次年度以降も共有して使っていけるように整備する。 ・授業の構成や道徳ノートの活用の仕方などについて、教師間で教材研究を行う機会をもてるようにする。 ・研究発表会や研修会に参加した教師は、資料や指導案を持ち寄り、より良い授業を展開することをめざして研鑽を深める。
	5	道徳科の授業・評価に関する研究や資料の開発・整備・交流	B			
	6	保護者等への道徳科の授業公開	A			
体力づくり	7	たくましい心と体を育てる魅力ある授業の工夫改善	B	・今年度は、水泳学習や運動会に向けての学習の取り組みを行うことができ、運動に対する子どもたちの意欲を高め、運動機会を保障することができた。 ・ドッジボール大会やなわとびチャレンジなど、運動委員による取り組みにより、休み時間も運動する機会が増えた。 ・保健指導や食育指導も担当の取り組みにより有効なものとなっている。 ・外遊びの子どもが増えるよう、日頃から外遊びの推進をした結果、外で遊ぶ子どもが増えた。	・今までのような運動会や団体競技がなかなかできない時であるので、大変だと思う。 ・少人数の学校特有の取り組みも試されていると思うが、縦割りの遊びもいいと思う。 ・外から見る限り、寒くても外遊びを元気よくしている。異年齢で声を出して遊んでいる子どもたち笑顔が良い。 ・１２月の持久走大会を参観させていただいた。子ども達は日々の練習を通して、友だちと競争ではなく、自分の記録を少しでも伸ばせるように頑張り、素晴らしかった。	・水泳学習と運動会を実施することにより、一人ひとりの子どもが、運動することの楽しさを体験し、運動に親しむ態度を育てる。 ・運動する機会を継続して増やすことにより、体力を向上させようという意識を高める。 ・新型コロナウイルス感染防止対策に注意しながら学習活動を進めていくことができるようにするため、教育委員会からの指導について連絡を徹底したり研修を行ったりすることで職員が共通理解し、安全に徹した体育学習を目指す。 ・ICTを活用した授業実践や研修会での情報を共有したり、定期的に授業交流会を実施したりすることにより、一人ひとりの子どもにとって楽しい体育学習を目指す。
	8	体力づくりを推進する運動実践	B			
	9	体を動かす気持ちよさを体験させ、進んで体を動かそうとする意欲の育成	B			
指導改善	10	学力向上を目指した指導体制・指導方法の工夫改善	B	・今年度は、校内研究授業後の研究協議会の場を持つことができたため、研究授業を通して指導方法の改善や授業形態の工夫などについて話し合うことができた。 ・情報教育主任を中心に、タブレットを活用した学習指導の研修の機会を設け、指導力向上に努めた。 ・全体的に毎日の時間外勤務を減らすことは難しかったが、それぞれが見通しをもち、時間を意識しながら進めることはできた。	・「明日の授業をどう進めるか」など、どこにいても頭から離れないことと思う。ゆとりのある教師達であってこそ教育活動の質の改善ができるもの。更なる働き方改革の取り組みを進めていただきたい。	・来年度以降、今以上にタブレット等のＩＣＴ機器を用いた学習活動を展開していくことが考えられるため、それらに関する研修や交流等を定期的に実施し、児童の学習意欲向上、学力向上につなげていく必要がある。 ・本校児童の課題に即した授業改善や授業形態について、組織的・系統的な指導を進めていけるよう、共通理解を図りながら研究を進めていけるようにしたい。 ・効率的な校務の進め方や、行事の見直し等について更に検討をしていていくことで、職員の超過勤務時間を削減していく必要がある。
	11	教職員の指導力、情報活用能力、及び組織的な教育力の向上	B			
	12	働き方改革の取組と教育活動の質の改善	c			

家庭・地域との連携・協働	13	保護者の子育てに対して積極的な支援	B	・コミュニティ・スクールとして地域からの協力・支援が積極的で、栽培活動等各学年の教育課程に位置づけながら進めることができた。 ・地域人材活用「学習サポーター」（ひよサポ）等の取り組みについては、今年度は特に制限のある中での活動が多かったため、その機会を設けることがほとんどできなかった。 ・学校便りや学年通信、HP等で情報発信することができた。 ・毎日のスクールガードの方々の見守りのおかげで、登下校を安全・安心に行うことができた。実施が危ぶまれた防犯教室であったが、１年、３年、５年の児童の参加という形をとって実施することができた。	・保護者の方々の学校に対する関わり方が大事だと思う。保護者同士の意見交換、日々思っていることを少しでもそういった場所で話すと、すぐに解決はできないが、少しずつ良い方向に向かうのではと思う。 ・コロナ課で中止になる地域行事も多く、子どもたちが地域の方と幅広く触れ合う機会が減った。感染状況次第だが、新年度は少しでも実現できるようにしたい。 ・今年度はコロナ禍のため、、地域との連携は難しい一年だった。 ・コミュニティ・スクールの地域からの協力・支援体制は確立されているものの、昨年に引き続き十分な活動ができいなかった。 ・栽培活動は順調にスタートできたが、３学期は子ども達への支援活動ができず、残念だった。	・保護者の子育てに対する支援については、コロナ禍においても、保護者が気軽に相談できる方法を検討し提案していく必要がある。 ・来年度も、教育課程の中に、地域人材を有効活用する指導計画を位置づけ、学年の実態に合わせて効果的な実践を行う。(防犯教室・人権学習・総合学習・生活科等) ・学校と地域とが協賛する行事を年間行事予定に位置づける。→今後も今年度のような社会状況であることを見据えながら、教育内容を見直し、実施可能な方法を検討していく必要がある。 ・学校だより、学年通信等の発行に加え、HPの更新を定期的に行うことで充実させ、学校の取組を保護者・地域に伝える。 ・今年度は、実際に学校が災害避難所となったこともあり、地震等の避難訓練や各学年の学級指導においてにおいて、児童の地域における防災意識を高めていく必要がある。 ・防犯教室については、全校児童の参加が難しい場合は、例年１年、３年、５年児童の参加という形を固定していくとよい。
	14	保護者・地域との交流や情報発信、参観、 懇談会、研修会の実施、地域人材の活用	B			
	15	防災・防犯教育の推進と、安心・安全な学校づくり	A			
保幼小中の連携	16	子どもの校種間交流や教員の出前授業	B	２学期に、「あきまつり」に日吉台至明こども園の園児を招待し、こども園に招待状を届けたり、秋祭りで交流したりすることができた。また、坂本幼稚園が来校して、授業の様子を参観していただいた。３学期に中学校の先生に来ていただいて、国語の授業をしていただいたり、中学校の生徒会等に来校してもらい、中学校の様子を教えてもらったりする予定。日吉サミットの打ち合わせ等で、中学校の先生と連絡を取り合って、連携を進めてきた。今年度は、コロナの関係で、なかなか連携を密に進めることは難しかったが、必要に応じて連携を進めることはできた。	・日々先生方の努力は感じている。 ・日吉台幼稚園に代わって坂本幼稚園との交流ができ、さらに今年度は至明こども園との交流（あきまつり）ができるなど、今後の保幼小交流の下地ができたことは大変良かった。	・保幼小、小中の連携を計画的に進める。 ・研修の場の設定をする。 ・幼児教育の終わりまでに育ってほしい姿を小学校と共有していく。 ・中学校区を単位とした取り組みを推進していく。（可能ならば、小中学校教員のT.Tの実施、教科担任制へのなめらかな接続） ・9年間でつけたい力を意識し、小中学校で系統的に実践に取り組む。
	17	校種間の授業公開や合同研修会	A			
	18	保幼小中の接続期の教育課程の編成等校種間のカリキュラム研究	B			
生徒指導	19	いじめや暴力行為、不登校等生徒指導上の諸課題の早期発見、日常的な予防指導	A	・いじめの早期発見、問題行動に関わって、報告､連絡､相談を行い、早い段階での組織対応を行った。 ・雪が降った時の過ごし方など、生徒指導上の問題が起きやすいことへの予防指導を行った。 ・一ヶ月に一回「キラキラさんチェック」という児童アンケートを実施し､いじめの早期発見、早期対応を行った。 ・スクールカウンセラー来校時には、児童の相談や保護者との個別面談を実施した。また、５年生児童全員を対象とした個別面談や各教室での児童観察を実施した。スクールカウンセラーとの連携により、児童や保護者への対応の仕方についての理解を深めることができた。	・何でも相談できる学校でいてほしいし、いつも子ども達の目線で見守っていてほしい。 ・いじめ問題は難しい。加害者、被害者どちらも善と悪に分けられてしまってはいけないし、その本質を正しく導いていく事を期待している。 ・自分の息子も小学生の時、いじめにあい、小４の９月から不登校。今の先生たちはよく頑張っていると思う。 ・児童数が少ないことを、家庭・地域・学校が協力して子どもたち一人ひとりに目を届かせる利点にしたい。	・毎週の打ち合わせや、毎月の児童アンケート、教育相談において、全職員の情報共有を図り、児童理解を深める。 ・児童の気になる行動や言動を見逃さず、適時、個別面談やケース会議を設定し、指導支援の方向性を検討する。 ・「報告、連絡、相談」を密にし、職員間における情報共有を図り、組織的な対応を進めていく。 ・「日吉台っ子の約束」を毎月の生活目標に掲げ、児童の学校生活の中に位置づけ、よりよい学校生活がおくれるよう指導していく。 ・スクールカウンセラーと５年生全員への面談については、時間の確保が難しいため、来年度からは面談を希望する児童のみに限定していきたい。
	20	生徒指導・教育相談体制を確立と組織的な推進	A			
	21	家庭・地域・関係機関との連携による指導	A			
特別支援教育	22	個別の教育支援計画及び個別の指導計画の作成と活用	B	・年度初めに、個別の指導計画の作成を保護者と確認をして、１学期から指導計画を活用して児童と関わることができた。 ・校内で特別支援や就学相談委員会を開いて、児童にとって適切な指導の仕方や進路を学校全体または複数の教員で共有することができた。 ・特別支援教育室をはじめ、巡回相談や就学相談の制度を使い、学校だけではなく、関係機関と連携して児童の支援方法を探ることができた。	・今の児童はよく守られている。時代はよくなっていると思う。 ・先ずは学校と家庭との良好な関係を築き、子どもの課題や成長に向けての共通理解が必要である。	・個別の指導計画をさらに活用して、教員間で指導方法の共有を図ったり、保護者と有効な手立てを共有したりできるようにする。 ・担任している児童だけでなく、学校全体の児童を全教員で見ていく姿勢を持つ。 ・教育関係機関と連携をさらに密にする。保護者と関係機関を積極的に繋ぐ。
	23	組織的・計画的な特別支援教育体制の確立	A			
	24	関係機関と連携した相談体制の充実	A			
満足	25	児童生徒の学校満足度	B	・「学校が楽しい」という質問に肯定的な回答をした子どもたちが９５％いるということは、学校としては大変意味深いことである。何をもって楽しいと感じているか、授業、友達関係、担任との関係等、子どもに絶えず目を向けながら指導してきている。	・少人数学級でクラス替えもないだけに、肯定的回答ができなかった子どもたちに対する個別対策もお願いしたい。 ・コロナ課で、友達となかなか話をしたりできないから、大変かと思う。 ・「学校は好きじゃない」「学校は嫌い」という児童が何人もいるが、学校に対しては「学校が楽しい」と言っているのか。 ・「学校生活が楽しい」という子どもが多いことは素晴らしい。「勉強がよくわかり」、「仲の良い友達がいる」ことが満足度の大きな理由になっている。	・他者を認め、自分も大切にするような自尊感情を高める指導に力を注ぐ。 ・コロナ禍ではあるが、３蜜に気を付けながら、友達と関わる楽しさを感じる経験を積ませる。 ・分かる楽しさ、認められる喜びが感じられる授業を展開する。